
プログラム名

リンダウ・ノーベル賞受賞者会議

プログラム期間

2012年7月1日～6日

プログラムの概要（事前準備の内容と期間中の内容について）

リンダウ・ノーベル賞受賞者会議は、例年、①ノーベル賞受賞者による講演、②ノーベル賞受賞者とのグループディスカッション、③若手研究者によるノーベル賞受賞者の前での研究発表、④朝食時のディスカッションフォーラム、⑤ヨーロッパの若手研究者向けに重きを置いた予算説明会、⑥文化プログラム（演奏会、南部ドイツの文化体験）、⑦マイナウ島への旅行およびそこでのクロージングセレモニーを行っており、今年は物理学にとって重要な発見と思われるヒッグス粒子らしき未確認粒子の発見を祝い、CERNとの中継を交えたディスカッションフォーラムが催されました。

事前準備としては、東工大から日本学術振興会（JSPS）に申請してもらい、その後、各自でリンダウ会議の事務局に申請するという手順です。若手研究者によるノーベル賞受賞者前での研究発表であるマスタークラスへの応募などは、事前にアブストラクトを提出しました。また、本会の経済的支援をしてくださるJSPSとはメール上で何度かやり取りを行いました。

プログラム以外の活動

プログラム以外の活動というのが出来ないのではないのかというくらい、みっちりスケジュールが詰められていました。昼食も夕食もすべて用意されているので何も困らず、マイナウ島から帰ってきた日に日本人参加者+ブラジル人で行った夕食で少しお金を使ったくらいでした。

感想

「リンダウ会議はパラダイスだった。」とクロージングセレモニーの際の若手研究者代表がスピーチをしていましたが、私も同感でした。普段の研究会や会議では絶対に聞かない話ばかりですが、参加者は皆、それぞれ物理に関わる人たちばかり。ノーベル賞受賞者も若手研究者も同じ場所で同じ話を聞き、議論を交わすという機会は何者にも代えがたい経験でした。自分の専門分野の話をするのに、バックグラウンドやらモチベーションやらを聞かれ、色々な物理に接する専門的会議というのは、他の専門化されすぎてしまった会議では経験できないものでした。物理の話でいえば、ダークマターの発見からレーザー分光法の話まで、確かに学部生の時に少しは勉強したかなという程度のものを、何故、そのような問題にいきついたのかという昔話を交えながらノーベル賞受賞者の方々はお話をしていました。また、いまだに解かれていない問題や最新の成果にまで踏み込んだ話もあり、毎時間、たった30分しか講演はないのですが頭をよく使いました。そして、他にも将来のエネルギー問題の講演や気候変動に対する科学的見解なども講演議題に上がり、それぞれ

の講演はバラエティーに富んでいます。まるで物理学者だけが参加したTED Talkを聞いているようでした。また、その日の午後には必ず講演者とのディスカッションセッションが設けられており、もっと聞きたかったことを質問できる場が用意されています。また、プライベートに質問できるのも非常に良いところで、講演にあがらなかった話題などはすぐ横を通りかかるノーベル賞受賞者に質問できるので、非常に恵まれた環境でした。参加者は700名近くと非常に多いのですが、応募すれば誰でも参加できるというものではありませんので、すべての講演は <http://www.mediatheque.lindau-nobel.org/#/Home> にて公開されており、実際に参加できなかつた応募者などへの配慮も忘れていません。

また、特筆すべきは科学に関わるパートナーの参加の数の多さです。予算を配分するための省庁関係の人たち、科学ジャーナリストなど多くの人たちも参加し、この会議の様子を各国に伝えていきます。日本からは科学ジャーナリストの人は来られなかったものの、経済的サポートをしていただいたJSPSの方が会議に参加し、今後の科学行政の在り方なども話していました。私自身も何か国かのジャーナリストに取材を受けましたが、これからの科学の在り方を考えるのには非常に良い機会になりました。

私がこの会議に参加したのには一つの大きな目標がありました。2011年9月に博士の学位を取得し、これからどのような科学者像であるべきなのだろうか、どのような科学的問題があるのだろうかという漠然とした疑問を突き詰めて考えるには、このような様々な分野の若い専門家が集った会議はとても好都合でした。タイトなプログラムでしたが、同世代の人たちと悩みをシェアし、一緒に考えを深めることが出来たのは非常に大きかったです。ここで得られた経験を活かし、今後の研究につなげていくことが出来たらと思っています。

最後になりましたが、本会議に出席するにあたり、選考を実施していただいた東京工業大学国際室の皆様、JSPS国際事業部研究協力第二課の皆様、リンダウ・ノーベル受賞者会議の運営事務局の皆様にご感謝の意を表したいと思います。
